

教科	福祉	科目	生活支援技術		必修・選択の別	必須
単位数	2	履修学年	1	履修学科	福祉科	
使用教科書	実教 社会福祉基礎			副教材等	実教 社会福祉基礎 学習ノート	
分割履修の有無（学年）		有（2学年）		授業形態	一斉（座学・演習）	

科目の到達目標		
<p>○社会福祉の理念と意義を理解し、社会構造やライフスタイルの変化を踏まえた新しい福祉社会を実践する態度を育成する。</p> <p>○社会福祉の歴史の理解を通して、現代社会における社会福祉の意義や役割を考える力を身に付ける。</p> <p>○基本的な対人援助の技術や多様な社会的支援について理解し、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する力を身に付ける。</p>		
知識及び理解	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	健全で持続的な社会をめざして自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	社会福祉の理念と意義、歴史を理解し、現代社会における社会福祉の課題解決等のための基礎的知識が習得できた。	社会福祉の理念と意義、歴史を理解し、現代社会における社会福祉の課題解決等のための基礎的知識が十分に習得できた。	社会福祉の理念と意義、歴史を理解し、現代社会における社会福祉の課題解決等のための基礎的知識が習得できた。	社会福祉の理念と意義、歴史を理解し、現代社会における社会福祉の課題解決等のための基礎的知識の習得に努めた。
思考・判断・表現	現在の社会福祉に関する諸問題を身近な問題としてとらえ、学習内容を踏まえた解決方法を考察できた。	現在の社会福祉に関する諸問題を身近な問題としてとらえ、学習内容を踏まえた解決方法を多角的に考察できた。	現在の社会福祉に関する諸問題を身近な問題としてとらえ、学習内容を踏まえた解決方法を考察できた。	現在の社会福祉に関する諸問題を身近な問題として理解し、学習内容を踏まえた解決する姿勢が見られた。
学習の主体的に取り組む態度	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組む態度を身に付けた。	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち続け、課題解決に向けた方法を探究する態度を身に付けた。	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組む態度を身に付けた。	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組もうと努力した。

提出物	学習プリント、学習ノート、各種課題
評価方法	年4回定期考査（観点別の問題）、小テスト、各種提出物、課題の取り組み状況等を観点別に照らし合わせ総合的に評価
評価割合（%）	知識：技術（50）：思考・判断・表現（30）：主体的に学習に取り組む態度（20）
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格、介護職員初任者研修、社会福祉・介護福祉検定

教科	福祉	科目	生活支援技術		必修・選択の別	必須
単位数	3	履修学年	1	履修学科	福祉科	
使用教科書	実教 生活支援技術			副教材等	自主教材	
分割履修の有無（学年）		有（2・3学年）		授業形態	一斉	

科目の到達目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を育成することを目指す。		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	教科書での学習を基本とした実践的・体験的な学習活動。実践的・体験的な活動を通して、利用者の状態にあった根拠に基づく介護実践を習得。	自立生活の支援について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を適切に身に付け実践できる。	自立生活の支援について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	自立生活の支援について体系的・系統的に理解しようと努め、関連する技術を身に付けようとしている。
思考・判断・表現	個人ワーク、グループワークに取り組む活動を通して、自ら取り組む課題を発見し、適切な解決方法を考察・まとめ、発信する。	自立生活の支援の展開に関する課題を的確に発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	自立生活の支援の展開に関する課題を発見しようと努め、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。
主体的に取り組む学習態度	個人ワーク、グループワークに取り組む活動。考えてみよう、編末問題などを実践する活動。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	健全で持続的な社会の構築を目指して学ぶ姿勢が見られ、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

提出物	学習を記録したプリント、課題レポート
評価方法	評価観点別に、年4回の定期考査、小テスト、提出物、レポート等の学習への取り組み状況などを総合的に評価
評価割合（%）	知識・技術（50） ・思考・判断・表現（30） ・主体的に学習に取り組む態度（20）
関連する資格・検定	・介護福祉士国家試験受験資格 ・介護職員初任者研修 ・社会福祉介護福祉検定1～3級

教科	福祉	科目	介護総合演習	必修・選択の別	必須
単位数	1	履修学年	1	履修学科	福祉科
使用教科書	なし			副教材等	中央法規 最新介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」
分割履修の有無(学年)		有(2・3学年)		授業形態	一斉

科目の到達目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造と発展に必要な資質・能力を身に付ける。

知識及び理解	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

学習の評価

	学習活動、指導上の留意点等	A:十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	地域福祉や福祉社会について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術を関連させながら、介護実習で身に付けた知識や技術を具体的にまとめることができる。	福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術を関連させながら、介護実習で身に付けた知識や技術をまとめることができる。	介護実習で身に付けた知識や技術をまとめることができる。
思考・判断・表現	地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。	介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、解決する方法を具体的に述べている。	介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、解決する方法を述べている。	介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を述べている。
主体的に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む。	福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に専門職としての支援の在り方を具体的に述べている。	福祉の見方・考え方を働かせ、主体的に専門職としての支援の在り方を述べている。	福祉の見方・考え方を働かせ、専門職としての支援の在り方を述べている。

提出物	授業振り返りシート、施設実習の振り返りシート(2回)、実習のまとめ
評価方法	授業振り返りシート、施設実習の振り返りシート(2回)、実習のまとめ等を総合的に評価
評価割合(%)	知識・技術:40% 思考・判断・表現:30% 主体的に学習に取り組む態度:30%
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格

教科	福祉	科目	介護実習		必修・選択の別	必須
単位数	3	履修学年	1	履修学科	福祉科	
使用教科書	なし			副教材等	自主教材 中央法規 介護技術ハンドブック	
分割履修の有無(学年)	有(2・3学年)		授業形態	一斉		

科目の到達目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、根拠に基づいた介護及び支援を実践するために必要な資質・能力を身に付ける。

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

学習の評価

	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B：一部は到達できている	C：到達に努力を要する
知識・技能	通所介護又は通所リハビリテーションにおける実習において、サービス利用者主体の生活支援ができるよう、専門的な知識や技術に関連づけて取り組んでいる。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習に意欲的に取り組み、専門的な知識や技術に関連づけながら、サービス利用者に応じた生活支援を実践できた。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習に取り組み、専門的な知識や技術に関連づけて介護過程を実践できた。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習に取り組んだ。
思考・判断・表現	通所介護又は通所リハビリテーションの実習に意欲的に取り組み、専門的な知識や技術に関連づけながら、サービス利用者主体の介護過程を実践できた。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習を通して、学んだ知識と技術に関連させながらサービス利用者主体の介護を実践し、成果と課題を記録することができた。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習を通して、学んだ知識と技術に関連させながら実践し、成果と課題を記録することができた。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習を通して、学んだ知識と技術を生かして実践し、成果を記録することができた。
主体的に取り組む学習態度	通所介護又は通所リハビリテーションにおいて、自己の課題と向き合い、専門職として必要な支援ができるように取り組んでいる。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習において、自己の課題と向き合い、実習担当職員のアドバイスを生かし、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習において、自己の課題と向き合い、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。	通所介護又は通所リハビリテーションの実習において、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。

提出物	実習日誌
評価方法	施設の実習担当職員が、実習に対する取り組み状況等を総合的に評価 A：5点 B：3点 C：2点 D：1点 E：0点
評価割合(%)	知識・技術：40% 思考・判断・表現：30% 主体的に学習に取り組む態度：30%
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格

教科	福祉	科目	こころとからだの理解		必修・選択の別	必須
単位数	3	履修学年	1	履修学科	福祉科	
使用教科書	実教出版 こころとからだの理解			副教材等	最新介護福祉士養成講座 1 1 「こころとからだのしくみ」	
分割履修の有無 (学年)		有 (2・3 学年)		授業形態	一斉	

科目の到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・ 自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ・ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
要介護者に対し安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を養う。	より安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察する力を養う。	介護に従事する者として人間の心身に関心をもち、より安全で安楽な介護技術の提供を目指して意欲的に取り組む態度を養う。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A:十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技術	副教材での学習を基本とした実践的・体験的な学習活動。実践的・体験的な活動を通して、利用者の状態にあった根拠に基づく介護実践を習得。	要介護者に対し安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を身に付けた。また、安全、安楽な介護技術を提供するためには、人間の心身の構造や機能を理解し根拠を基に提供が必要があるということを理解した。	要介護者に対し安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を身に付けた。また、安全、安楽な介護技術を提供するためには、人間の心身の構造や機能を理解する必要があるということを理解した。	要介護者に対し安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を身に付けようとした。また、安全、安楽な介護技術を提供するためには、人間の心身の構造や機能を理解する必要があるということを理解しようとした。
思考・判断・表現	個人ワーク、グループワークに取り組む活動を通して、自ら取り組む課題を発見し、適切な解決方法を考察・まとめ、発信する。	安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、他と協力して尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察した。	安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察した。	安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察しようとした。
主体的に学習に取り組む態度	個人ワーク、グループワークに取り組む活動を通して、自ら取り組む課題を発見し、適切な解決方法を考察・まとめ、発信する。	介護及び支援の実践に関する課題を的確に発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて主体的かつ協動的に創造的に解決することができた。	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決した。	介護及び支援の実践に関する課題を発見しようとする、職業人に求められる倫理観を創造的に解決しようとした。

提出物	学習を記録したプリント、課題レポート
評価方法	評価観点別に、年4回の定期考査、小テスト、提出物、個人・グループワーク等の学習への取り組み状況などを総合的に評価
評価割合 (%)	知識・技術 (50) ・ 思考・判断・表現 (30) ・ 主体的に学習に取り組む態度 (20)
関連する資格・検定	・ 介護福祉士国家試験受験資格 ・ 介護職員初任者研修 ・ 社会福祉介護福祉検定 1～3 級